

ルールの調整と整備

本書の頒布に伴い、惨劇RoopeR本体のルールに関して少々の整備を行います。目的はゲームの運用における語弊をなくすことにあり、特にHaunted Stageにて頻発するであろう点を改善しております。また、当項目のページは後日Webサイト上でも公開されます。

能力の区分けとその解決順

全ての役職の能力、ならびにルールにより得られる一部の能力には【強制】または【任意】といった区分が与えられます。【強制】区分の能力は条件を満たしたならば必ず解決を行わなくてはなりません。【任意】区分の能力は脚本家の任意で使用するかを決定することができます。そして、複数の能力が同じタイミングで用いられる場合、その区分に応じて以下の順番で解決を行います。

- i : 条件を満たしている【強制】の能力を全て同時に解決する。
- ii : 条件を満たしている【任意】の能力を脚本家が任意の順番で解決してもよい。

例1 : ナイトメアの【強制】能力で3人目の異性を死亡させた場合、ヴァンパイアの【任意】能力は使用できる。

例2 : ナイトメアの【強制】能力でオーバーロードを死亡させたとしても、上記のiの時点ではまだ死体ではないためオーバーロードの【強制】能力は解決されない。

キャラクターと死体

キャラクターカードに対する標記の整備となります。各種テキスト中において、「キャラクター」と表記されている場合は生存しているキャラクターカードのことを指します。「死体」と表記されている場合は死亡しているキャラク

ターカードのことを指します。単に「カード」と表記されている場合は、生死を問わず意に沿ったキャラクターカードのことを指します。

例1 : マジナイシの能力は死体を対象としているので、キャラクターには使用できない。同様にホラーの能力はキャラクターを対象としているので、死体には使用できない。一方でポルターガイストの能力はカードを対象としているので、キャラクターにも死体にも使用できる。

例2 : ウェアウルフの能力はカードと記載されているので、ウェアウルフが死体であっても脚本家は行動カードをセットできない。

性別について

キャラクターカードの情報に関する整備となります。ファクター「男性」または「少年」を持つカードは性別「男性」を持ち、ファクター「女性」または「少女」を持つカードは性別「女性」を持つものとします。また、男性にとって女性は異性であり、女性にとって男性は異性となります。(いずれのファクターも持たないキャラクターカードは性別も持たず、異性となることもありません)

例1 : 女性がヴァンパイアであり、2人の男性と魔獣が死亡している状態では、ヴァンパイアの能力を使うことはできない。

蘇生について

用語の整備となります。死体が蘇生するとはそのキャラクターカードが死亡した状態から、生存する状態に変化することを表します。生存するキャラクターが蘇生する場合、何も起こりません。